

農学部創立30周年近づく



六條会報

第1号

神戸市灘区六甲台町一
神戸大学農学部内

六 條 会

印刷 新写植出版

記念事業の準備はじまる

会長 西川 欣一



神戸大学農学部

(平井政勝氏撮影)

昭和二十四年五月、篠山の地に誕生したのが母校は、十七星霜の兵庫農科大学時代を経て、昭和四十四年四月から神戸大学農学部として十一年余を経過し、創立三十周年もはや一年半後にせまっております。

順みますと、この三十年の歳月はわが国にとっても、わが農学部にも時代の激変がきびしく反映いたしました。開学当初は、いまだ敗戦後の食糧難時代で、農業立国、食糧増産というかけがえのない使命が課せられておりました。

二十八星霜、農学部は生れ、育ち、成人し、いま、その真価を問うておられます。それは、博士課程の設置計画です。この時点で六條会報が発表されることは、農学部にとっても三千名の会員にとっても極めて意義深いことであると思います。農学部の将来は、その生い立ちに刻まれています。まず、それに目を当ててみましょう。

丹波篠山、雪深い田舎の代名詞でもある城下町、兵舎を転用した兵庫医科大学予科が学制改革を機に、農科大学へ転身をとげ、「教養高き農学者。農業技術者の養成」をその使命を達成しながら、「やがては全世界の文化ならびに人類のために寄与して大学の国際的性格を満足せしめようとする……」(三宅捷初代学長の開学式式辞、昭和二十四年より)との理想を掲げて出発し、外観は木造兵舎であったも、充実した三十数講座を擁する陣容を短期間に備えて、第一回の卒業生を送り、「篠山の奇跡」を実現した初回は、いまこそ甦らせる時でありましょう。

この豊かな土壌の上に、美事な花が咲き、実を結ぶには、やはり厳しい冬が二十九年から四十年まで続いたものでした。学内には移管を前提とし、社会的には高度成長の波をかぶり、経済社会構造の変革の中にあつて農業基本法が公布されるという状況に耐えながら、総合大学における農学部の在り方を問われた時期でした。このような「六甲への苦悩」に堪えて、佐佐木学長を中心に学科と教員の再編成という現実と直面しながら、研究教育に打ちこまれた先生方のご心労

声の中で発足したわけですが、工業優先、高度経済成長という国の方針の大転換の中で、農村労働力の極端な流出と後継者の都市への流出、加うるに国際的な自由経済の風潮は、ひしひしとわが国の農業経営に一大改革をせよと迫りました。一方、わが母校も体質改善、国立移管と大きな荒波を乗り越えて、今日ではもつと大局的に人類の食糧資源の確保、太陽エネルギーを利用した資源問題として農業をとらえ、農学部としては、これまでの基礎的研究を一層重視すると共に、応用科学として資源エネルギー確保、更に環境保全という現実社会への奉仕へと存続意義が変化して参っております。

ともあれ、三十年を一つの大きな区切りとして、盛大に記念事業を計画し、第一に記念事業を計画し、第二に創立三十周年記念事業準備委員会を発足させられ、局には学部全体の総意として創立三十周年記念事業準備委員会を発足させられ、準備業務がスタートしたのは、この頃です。わが六條会報は、この計画に全面的に協賛したいと考えております。同窓生諸兄姉の絶大なご協力をお願いいたします。

なお、計画決定次第、詳細は学部記念事業計画と共に出す予定です。記念祝賀会当日は多数、恩師諸先生方のご招待の実現など、学部記念事業準備委員会にお願ひしたいと思つており、その際同窓各位には万障お繰り合わせの上、ご出席下さつて母校発展の姿をご確認下さると共に、より強力な同窓会建設のため格段のご協力を賜りますようお願い申し上げます。



祝 辞

神戸大学長 須田 勇

を發揮するなかで、本学農学部の優秀性を生かしてまいらうべきだと考えた。それには、農科大学の出身にあつては、農学の基礎としての理学を重視して、農科大学構想がだされ、移管にあつては、農学を展望しての農学工学の重要性が説かれた歴史を思い浮べ、本学の理学部・工学部との接合は不可能でないばかりか、総合大学における農学部の新しい在り方ではないかと直観したからでした。農学部が新たに真の国際性を獲得し、その初心である国際性を發揮される姿を脳裡に描き、発刊のお慶びを申し上げます。



六條会の皆様へ

農学部長 河本正彦

秋冷のおりから、六條会の皆様には如何お過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いに御活躍のことと存じます。

私事にわたり恐縮ですが、私が昭和26年に兵庫農大の助手を命ぜられ篠山に赴任してから26年が経過いたしました。その間は、わが国は敗戦の傷手からまだ十分に立ち上ることができず、たとえば停電で実験が中断されることがしばしばありました。

戦後の日本は憲法改正、農地改革をはじめ多くの大改革を断行いたしました。農学部もその最大のものが、学制改革による新制の農学部として、多くの障害を克服しながら遂行されました。農学の高専教育機関がなかったのが、当時の疲弊した地方自治体にとって中学校舎の建設は難事業であり、思ひ余つて自殺した町村長も出たほどです。学制改革の功罪については賛否あまじやうで、真の評価は百年後に定まるといつて過言でないと思ひます。しかし学制改革により高等教育がひろく一般大衆のものとなり、それが今日のわが国の経済的発展の大きな礎となつたと考えることができます。

戦後直後、篠山町の連隊跡に県立医科大学予科があらりましたが、学制改革により廃止ということになりました。もともと兵庫県は工業、商業とならんで農業の盛な県であつたにも拘らず、農学の高専教育機関がなかったのが、当時の疲弊した地方自治体にとって中学校舎の建設は難事業であり、思ひ余つて自殺した町村長も出たほどです。学制改革の功罪については賛否あまじやうで、真の評価は百年後に定まるといつて過言でないと思ひます。しかし学制改革により高等教育がひろく一般大衆のものとなり、それが今日のわが国の経済的発展の大きな礎となつたと考えることができます。

出所当所の1学科が昭和52年現在、5学科29講座および大学院(修士)を有するまで成長しました。今日にいたるまでに当学部の歩んだ道は決して平坦でなく、特に国立移管、神戸への移転、大学院設置等の難関は教職員全てが全力を挙げてやつと乗り越えてきたものです。

ある大学を評価する尺度には色々ありますが、卒業生の活動状況もその一つであります。この尺度によりわが神戸大学農学部を顧みるとき、私は非常な誇りを感ぜずにはおれません。二千数百名に及ぶ卒業生諸氏は、個々の名を挙げませんが、広く各界で活躍しておられるからです。私達教職員も学部の充実、発展のため今後努力いたす所存ですが、六條会の皆様にも益々活躍され、当学部の評価を一層高めることに御協力下さるようお願いいたします。

目下神戸大学においては農学部、工学部および理学部を母体とした学部および修士課程から独立した学際的な自然科学総合研究科博士課程(3年課程)を設立する計画が進行中であり、この画期的な計画が実現すると神戸大学は学問的ならびに社会的な要請に十分に対応しうる態勢がととのうははずです。このことは六條会の皆様にも大いに関心のあることと存じますが、計画実現のために絶大な御支援を賜るよう切願いたします。

皆様の御多幸をお祈りしながら筆をおかせていただきます。

神大卒で入会金未納者は同封の振替用紙で納入下さい

農学部
の歩み

副会長 東 順三

本学は昭和24年に県立の農科大学として、農学と農芸化学の2学科のみで、学生数も数十名という小さな規模で篠山に創設された。30周年を迎える今日では、学舎が六甲台に、農場が加西市に移転し、国立の神戸大学の農学部として園芸農学、植物防疫学、農業生産工学、農芸化学、畜産学の5学科に拡大された。最近園芸農学科に熱帯有用植物

相応の齢になったというところであろう。学内には同窓生が34名おり、研究、教育の中心的な役割を担って活躍しているのが実状で、心強く感じている。

単科大学としての農科大学から総合大学の農学部になったことは教育面でも研究面でも幅の広がりができ、大きなメリットといえる。たとえば研究面では学内に次のような共同利用施設が

えよう。しかし、農科大学の卒業生の多くが思い出話に語る篠山を舞台とした人間味のふれた学生生活は六甲台の学生には味わえないようで、これが時代のせいか、都会のせいか、総合大学のせいかわからない。さて、神戸大学では目下、学術研究の飛躍的発展と、新しい時代に対応できる人材の育成と、社会に開かれた大学としての責務を果た

博士とは異なった豊富な基礎知識をもち、社会の現実的な創造力を発揮している柔軟性をもった新しいタイプの博士の育成を一つの目標としており、農・理・工の3字部の学問的専門分野の総合、新分野の開発、境界領域及び学際領域の学問分野の開拓、更に純粋科学と応用科学、技術の相補協力などを発展させることを理念としている。

具体的には、この大学院は博士課程（3年課程）で既存の学部・修士課程とは独立したもので、農・理・工の学部の教官を主体として次の7専攻からなる。

- 物質科学
- 分子反応科学
- エネルギー科学
- 生産科学
- 生物資源科学
- 環境科学
- システム科学

農学部はこの専攻のうち生物資源・環境・分子反応・エネルギーの科学分野に分かれて包含される予定である。

このような計画が近い将来実現して、急速に進展する未来にかけて母校は発展しつつけるものと信じたい。

思い出の記録

篠山を去る頃

「丹波道や 多紀高原に
新しき理想かざして 生れ
たり兵庫農大：」（学歌）
篠山の西北、サカズキ山
のふもと、旧陸軍七十連隊
跡に、最高学府「県立農大」
が創設されたのは、まだ敗
戦の虚脱から抜けきらぬ昭
和二十四年の春であつた。
終戦とともに長い歴史の幕
を閉じた連隊の転用策とし
て、自衛隊誘致も取上げら
れたが「機械ばかり多く、
研究室に變り営庭には白球を
追つてかけ回る若い学徒た
ち。その将校にとつて夢の
ような姿だつたらう。
「たたなわる 山々遠く
こだまする雄叫びあげて
進み行く兵庫農大 いざわ
れら 若き生命にくない
の灯火かがけ はろかなる
道を照らさん」
大学創設の主力となつた
のは、初代三宅捷、二代佐
伯秀章の両学長ら、旧植民

一般に大学は外に對して閉鎖的だが、こゝは外来者の出入りも自由。学生たちも城下町の環境にわけこんだ。町のごどもたちの家庭教師となり、こども会の育成にも一役、コーラス活動に町の青年のグループ活動にも参加した。年に一度大学祭の夜になって、酒吞童子の親類くらゐになって「デカンショ、デカンショ」と青春をうたいあげた。こうした若い研究者たちはいま「神戸に移れば、建物も鉄筋コンクリート四階建。も鉄筋でなかつた電子顕微鏡も使える。それに文献だって……と、胸をふくらませながら、も、ちよつぱりさびしうである。

設されて講座数も29に達し、学部のある学生が650名に近いた大学にまで発展してきた。更に、昭和47年から待望の研究科（大学院修士課程）が設置されて50名に近い院生が研究に励んでいる。30周年ともなると、どの講座も先生が代替りし、古い同窓生にとっては現在の先生の名前を聞くと、若返りしたと感じられるらしいが、お互いに年を重ねてそれ

成果をあげている。
放射性同位元素共同実験室
計算センター
水質管理センター
低温センター
科学計測センター
また、教育面では学生は教養課程では他学部の学生と共に講義をうけ、専門課程に進学してからもどの学部の講義も自由にきけて、農科大学時代の卒業生からみれば羨しい状態にあるとい

兵庫農大教養過程教官のつどい

さ
さ
や
ま
会

中村五郎

昭和四十一年に国立移管が
始つてから早いものでも
う十一年になります。当時
設に分離することになりま
したが、何といつても農大
時代が懐しく、その後も篠
山会^{（注）}なるものをつくつて
時々顔を合せては当時を
偲んでおります。くわしい
消息を申し上げる余白はあ
りませんが、一応の所属を
つぎにお知らせします。

(社会関係) 山本(賢)

先生は現在甲子園大におつとめで、京都府下のお住居から週に三・四度宝塚の大学へ、またその合間には非常勤で須磨の神戸女子大に通われるなど、今なおフル回転を続けておられます。

松下先生は姫路短大で、筆者の中村も神大教養部で元気でやっております。

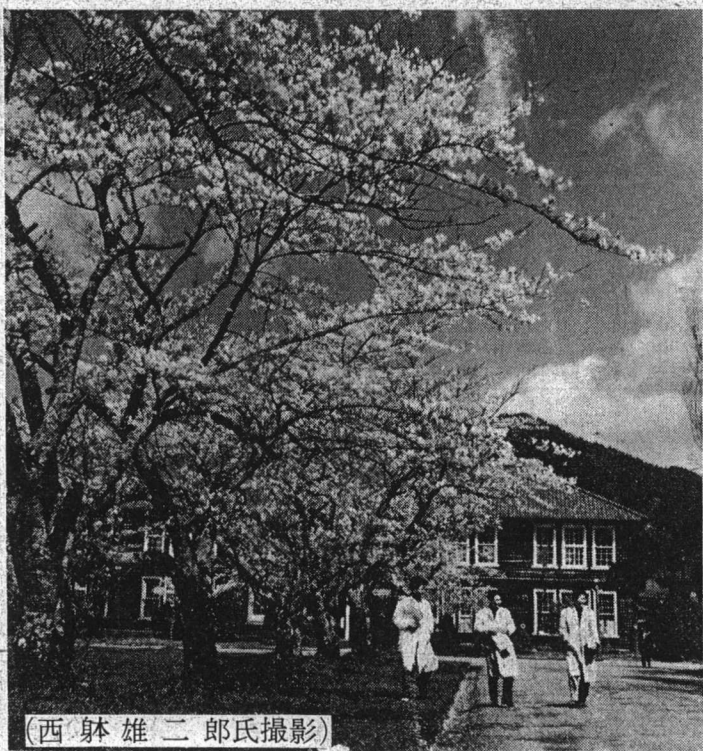
部隊生き残りの将校が、国鉄篠山駅におり立ったが、かつて出征兵士を送る歓呼の声に包まれた駅のガラス戸は割れ、構内は雑音がばうばう。秋雨にぬれたふささとの山なみさえわびひさした。重い足どりで連隊を訪れると、将校集会所は大文字事務室。兵舎は教室や研

められた。農学科のなかには移民学という珍しい講座を設けた。ブラジルに農業調査団を派遣したり、家族ぐるみでブラジルに移住した教授や卒業生もあった。教養課程も、優れた知識、技術は立派な人間性を離れて存在しないとの建前から人間形成に力を入れ、旧制高校を思わす念入りの指導

弱電關係など公害のない工場を誘致する手もある。いづれにせよ地元の意向を尊重して慎重に考えるつもりいまのとおりもう少し様子を見たい、といつてゐる。

当分のこの校舎も無人のまま新しい住人を持ちあぐねることになりそうだ。

農大創設のころ、当事者たちは「日本が文化国家と



(西 躰 雄 二 郎氏撮影)

先生は神戸商大学長をつとめられた後定年退職され、現在、神戸女子大におられます。長島先生は神戸商大斎藤先生は阪大文学部、栃木先生は姫路短大におられます。竹内先生は先年、姫路工大を辞されました。山本(寅)先生は神戸商大を定年退職後、お気の毒にも昭和四十七年八月に逝去され、またドイツ語の長谷部先生もかなり以前に故人となられました。

園田短大、多河先生は神戸商大、大嶋先生は兵庫県の教育研修所におられます。

(生物関係) 浜田先生は親和女子大でご壮健、堀江先生は神大教養部を定年退職後、神戸女子大、湊川短大で教えておられます。辻先生は京大理学部、野草先生は姫路短大、宮田先生は神大教養部におられます。

(物理) 大平先生、松居先生は姫路工大で、杉原先生は神大教養部でご精勵。

(化学) 石井先生は神大
教養部を定年退職後明石短
大に、安田先生は神戸商大、
三崎先生は姫路短大、佐々
木先生は姫路工大、岸本先
生は神大理学部でそれぞれ
お元氣です。

その外には数学の三浦先
生が姫路工大におられ、体
育の樋口先生は最近姫路短
大を定年退職されたそうです。
篠山会館がいづまでも続
くように諸先生のご健勝を
祈りたいと思います。

「かぐわしき 大地のにおい
豊かなるみのりとともに
栄えゆく兵庫農大
いざわれら 若き心に
とこしへの真理求めて
ゆみなく進み行かなん」
教育は全学一致して進め
られた。とくに四年前、教
授会が近代農業に適應した
体質改善を検討、植物防疫、
農業生産工学という新しい
学科を増設し、機構も五学
科二十七講座にふくれあが
った。

ここはオックスフォードのような学園になるだろう」と考えた。だが、その夢はみものらず、農大は成人式も迎えぬうちに姿を消す。だが、だれも関係者の見出しの甘さ、いや善意から出た誤算を責めることはできない。学園が県下の後進地丹波に残した多くの業績を、心からたたえたい。

（昭和42年3月
朝日新聞より）

名簿・年史センター

新 写 植 出 版 KK

上 垣 豊 (農芸化学16回卒)

〒537 大阪市東成区神路1-7-2

☎06—974—0481

ラブネスト
チョコバー

株式会社 ラブネスト

上村 啓 (農化39年12回卒)

神戸市東灘区御影塚町2丁目1番18号

TEL.神戸 (042) 0551

延 喜 会

(會員勤務先・順序不同)

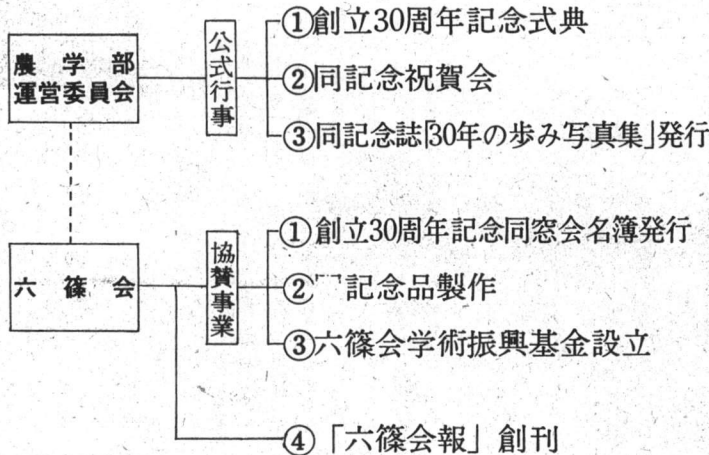
西宮酒造株式會社	大關酒造株式會社
本野田酒造株式會社	日本麥芽工業株式會社
辰馬本家酒造株式會社	原野産業株式會社
株式會社松尾仁兵衛商店	松谷化學工業株式會社
株式會社安福又四郎商店	淺田化學工業株式會社
白鶴酒造株式會社	兵庫縣立工業試驗所
菊正宗酒造株式會社	兵庫縣立明石農業試驗場
百萬兩新泉株式會社	兵　　庫　　県　　庁
沢の鶴株式會社	神　戸　市　役　所
灘譽酒造株式會社	神　戸　大　学　農　学　部
忠　勇　株　式　會　社	発　酵　生　産　学　研　究　室
桜酒造株式會社	

神大卒で入会金未納者は同封の振替用紙で納入下さい

神戸大学農学部創立30周年

記念事業運営組織図（試案）

期日：昭和54年5月第3土曜日（予定）



【註】農学部公式行事は運営委員会において、今後全く新しく検討されるもので、本試案は六篠会より学部長あて30周年記念事業実施方をお願いした際、例えばという事で提出したものです。

支 部 だ よ り

六篠会、県職支部会の近況

田中平義

「デカンショ」のふるさと
丹波篠山を毎年夏になると、
二〇数年前の草深い兵舎跡
の大学生活を思い、当地で
遭遇した素朴な人々、下宿
生活など、なつかしく思い
起すことがある。私が県に
就職したのは昭和二十八年
で兵庫農大卒業生として最
初であった。その後毎年二
名前後づつ後輩がふえ続け
五年後に、ようやく十名に
なり、十年後で二十九名と
約三倍になり、現在兵庫農
大卒業生が四十九名、神戸
大学農学部卒業生が三十名
と総員七十九名が県庁を中
心として県内各地で活躍し
ております。職務別に分類
いたしますと、行政職が五
十名（事務職五名、技術
職四十一名普及職四名）研
究職が二十九名（農業二十
一名、畜産一名、衛生一名、
公害三名工業二名）で今後
兵庫農大を背負って行く自負
と期待を担って活躍してい
る。県職員同窓会は最近年

鶴陵会の皆様へ

切貫武代司

光陰矢の如し、同窓会員
として20年余、第一のふる
里或いは第二のふる里、皆
様の考えは様々と思う。然
し一昨年の総会に鶴陵会か
ら出席された方は数名であ
ったが、決意を新たにされ
情熱をもやされると同時に
今後、多数の参加を望んで
おられました。
近く30周年記念事業が催
されようとしております。

延 喜 会 久 保 吉 正

名誉教授麦林先生、現教
授西羅先生、両先生の頭字
二字を拝受して、麦西会の
名称で発足したのがこの会
の始まりであるが、昭和四
十七年三月に、麦林先生が
御退官なされることになり
御退官を記念して当会の新
しい名称をお願いしたとこ
ろ、世界の三美酒の一つで
ある日本酒の原料、製造、
消費のすべてに関係のある
学識者、技術者、産業者、
そして酒を十分に鑑賞でき
る愛好者が会員であるため
日本酒にゆかりのある名称
をと言ふ事で、今から約十
年前の平安朝初期に、醍醐
天皇の命によって編さんさ
れた法文集があり、当時の
宮中や政府で行われたあら
ゆる行事、慣行の事務規定
のようなものが集められて
ある延喜式の中に、当時の
日本酒の造り方が可成り詳
しく書かれてあったことか
ら、この延喜式に因んで名
命下されたのが現在の延喜
会である。会合は年二回不
定期であるが行なわれ、昔
から育まれてきた日本酒
を十分に鑑賞することは、
かなりの教養が必要なこと
は言うまでもないことで、

定期役員会報告並びに
創立30周年記念写真集
の写真募集について

鑑賞力の向上そして日本酒
というものは、めいめいの
品質向上をはかるため、
講演、研究発表、討論、工
場見学などを通じて、知識
の交流と相互啓発をとお
し、各会員の協力を要
現しようとするものである。
起のよい同窓会でもある。

四月二十八日、三宮スカイ
サントリーで、また昭和五
十二年は四月三十日に農
学部会議室に於て、それぞ
に希望します。

昭和52年度
六篠会役員名

- 会 長 西川 欣一 (A1)
副 会 長 東 順三 (C1)
常任幹事
庶 務 新家 龍 (C5)
辻 莊一 (Z12)
会 計 切貫武代司 (K1)
永吉 照人 (A13)
三十尾修司 (A神6)
名 簿 能宗 康夫 (C2)
上垣 豊 (C16)
監 事
浦岡 睦 (A7)
山本 博昭 (A12)
幹 事
久保 吉正 (C2)
前川 進 (A3)
今村幸三郎 (A4)
進藤 恭 (Z5)
北浦 義久 (A6)
山川 昇 (P16)
入江 克美 (P17)
大喜多健彦 (Z17)
山木 和人 (T神4)
(以上20名)

昭和51年度会計報告（昭和52年3月31日現在）

収支対照表			
前年度繰越金	207,330	本年度支出金	232,683
本年度入金	2,346,764	本年度繰越金	2,321,411
合 計	2,554,094	合 計	2,554,094

収入の部		
	金 額	備 考
前年度繰越金	207,330	
農大会計より	44,265	
名簿委員会	338,600	
入会金	903,000	新入生5000円×117人
名簿代金	598,000	卒業生2000円×159人
協賛金	451,500	在学学生
預金利息	11,399	299冊分
合 計	2,554,094	204名

支出の部		
	金 額	備 考
一般事業費	82,250	弔費を含む、退官記念品等
通事信務費	67,670	新入生、卒業生への入会金払い込み通知
事務費	4,063	帳簿、印刷費
謝金	63,100	第1回役員会
謝金	13,600	アルバイトおよび学部事務への謝礼
謝金	2,000	前年度名簿代二重払い返金
合 計	232,683	

※監査の結果誤りなきことを認めます

山本 博昭
浦岡 睦

昭和52年度予算案

収入の部		
	予算額	備 考
前年度繰越金	2,321,411	
入会金	1,082,000	新入生158人×5000円
金利収入	35,000	51年度卒業生146人×2000円
預金利息	20,000	名簿
合 計	3,458,411	

支出の部		
	予算額	備 考
農学部教育研究活動援助費	100,000	研究、教育
一般事業費	100,000	退官記念品、オリエンテーション
文書印刷費	100,000	大学祭、教職学生等六甲マラソン
一般事務費	400,000	保管庫通信費を含む
会議費	50,000	
謝金	50,000	
事務連絡旅費	20,000	
雑費	10,000	
基準準備金繰入	300,000	
特別会計繰入	28,411	
特別会計繰入	2,300,000	
合 計	3,458,411	

特別会計（農学部学術振興基金準備金）

前年度繰越金より	2,300,000
52年度繰越金	300,000
合 計	2,600,000